

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
2022年度第5回事業普及委員会議事録

I. 日 時： 令和4年10月22日（土）17:00～19:00  
配信場所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局（Zoomによるオンライン会議）

II. 出席者 今泉委員長、波多野委員、尾崎委員、西浦委員、木村委員、歌代委員(すべてネット出席)  
(事務局：井端事務局長、中村)

III. 検討内容

コロナ感染防止のため引き続き、ネットによる委員会として開催した。

1. 2022年度機関誌 No.3（12月号）の企画について

① 巻頭言は、立正大学に依頼することにした。

② 特集は、本協会が令和3年度に実施した「私立大学教員授業改善調査」の結果から、反転授業の充実に考慮している教員が4割と、まだ関心が低いことが明らかになったことから、あらためて「反転授業によるアクティブラーニングの有効性と普及への課題」としてとりあげることにした。躊躇する教員が多数いる理由としては、事前学修のビデオ教材の準備に不安がある、対面授業で意見を出し合い、知識の関連付けなどを行う授業設計や授業方法への戸惑い、予習動画を見ない学生への対応などが考えられる。そこで特集では、アクティブラーニングの一環として取り組んでいる反転授業に対する理解の共有をはかるため、各授業分野の体験を紹介し、教員への一助となるよう、授業現場の声を届けることにした。

掲載依頼原稿は、以下の通りとし、依頼先の承諾を得て掲載することにした。

・「アクティブラーニングによる反転授業の有効性と普及支援体制の考察」(仮題)

関西大学教育推進部教授 岩崎 千晶 氏

・工学分野

「リアルタイムオンラインによる反転授業の効果と課題・展望」(仮題)

山梨大学工学部教授 森澤 正之 氏

・会計学分野

「反転授業とグループ書き込みワークによる授業改善の効果と課題・展望」(仮題)

関西学院大学国際学部教授 木本 圭一 氏

・経営学分野

「大教室アクティブラーニングによる反転授業のグループワーク方略の改善効果と課題・展望」(仮題)

北海学園大学経営学部教授 伊藤 友章 氏

・グローバル人材育成分野

「予習活動の定着を目指した反転授業の効果と課題・展望」(仮題)

明治学院大学文学部教授 関口 幸代 氏 氏

・物理学分野

「LMSで予習、対面で振り返りと演習による反転授業の効果と課題・展望」(仮題)

東京理科大学理学部准教授 鈴木 克彦 氏

・スポーツ科学分野

「双方向ツールを活用した反転授業の効果と課題・展望」(仮題)

順天堂大学スポーツ健康科学部教授 鈴木 良雄 氏

・歯学分野

「TBLによる反転授業の効果とポートフォリオでメタ認知力の向上」(仮題)

大阪歯科大学歯学部教授 池尾 隆 氏

・医学分野

「反転授業を取り入れた 小児科シミュレーション実習の効果と課題・展望」(仮題)

近畿大学医学部教授 岡田 満 氏

③「数理・データサイエンス・AI教育の紹介」として、文科省が「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定した大学の中から、「先導的で独自の工夫・特色を有するもの」として「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)プラス」に選定した10大学の取組みを2022年度No.1から紹介しており、No.3では、『「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)プラス」選定校における教育実践取組みの紹介(その3)』として以下依頼先の承諾を得て掲載することにした。

- ・筑波大学：  
筑波大学におけるデータサイエンスリテラシー教育
- ・山陽小野田市立山口東京理科大学：  
山陽小野田市立山口東京理科大学のデータサイエンス教育
- ・金沢工業大学：  
Society5.0 社会で活躍する人材育成『KIT 数理データサイエンス教育プログラム』

- ④「私情協ニュース」は、以下を掲載することを確認した。
- ・2022 年度 ICT 利用による教育改善研究発表会受賞者決定
  - ・分野連携アクティブ・ラーニング対話集会 開催要項
  - ・2022 年度 学生による社会スタディ オンライン開催 開催要項
  - ・2022 年度 大学教員の企業現場研修 オンライン開催 開催要項
  - ・2022 年度 産学連携人材ニーズ交流会 オンライン開催 開催要項
  - ・2022 年度行事日程・加盟校の特典
- ⑤「事業活動報告」は、以下を掲載することを確認した。
- ・2022 年度 私情協 教育イノベーション大会 開催報告
  - ・2022 年度 ICT 利用による教育改善研究発表会 開催報告
- ⑥「募集」は、以下を掲載することを確認した。
- ・教育事例等コンテンツオンデマンド配信案内
- ⑦「賛助会員だより」は、以下を掲載することを確認した。
- ・日本システム技術（株）

## 2. その他（次回の日程について）

今回は2022年度No.3(12月号)の原稿の確認を中心に検討することとし、開催日時は、12月19日(金)17時より、引き続きネット(ZOOM会議)にて開催することとした。